

## 令和2年度 磐田市魅力産業支援会議 内容及び会議録

1 日 時 令和2年10月27日（火） 14時00分～16時00分

2 場 所 ワークピア磐田 視聴覚室

3 出席者 磐田市魅力産業支援会議委員 10名  
事務局（経済観光課、産業政策課）

### 4 内 容

(1) 開会

(2) あいさつ

(3) 出席者紹介

(4) 議題1 磐田市産業振興計画

①事業評価の概要

②事業評価の詳細

基本目標1：まちなぎわいと交流を促進します！

基本目標2：ものづくり産業の競争力を確保します！

基本目標3：未来をひらく新たな産業を創出します！

基本目標4：次代を見据えた人材育成・確保を支援します！

議題2 令和2年度磐田市企業実態調査速報

①実態調査の概要と速報

(5) その他

(6) 閉会

### 5 意見等

(1) 基本目標1：まちなぎわいと交流を促進します！

委 員・やはりジュビロの選手と触れ合う場があることはすごく恵まれていること。

・学生合宿とかスポーツ利用が多い中で、エコパとの連携も視野に入れながら交流人口を伸ばしていくのが望ましい。

・竜洋のオートキャンプ場は西日本一である。なかなか大変だと思うが、小中高校、みんな竜洋のキャンプ場を一度体験して大人になっていくと教育上いい。

・コロナ禍においてスポーツ合宿はほとんどキャンセル。来年はその反動を期待している。

・磐田市の観光は拠点が分かれてしまっている。行政が中心となって拠点づくりを長い目で視野に入れていただきたい。

事務局・エコパとの連携についてトップリーグや代表戦でブース出店するなど市の魅力発信に役立てていく中でどのような形がベターかを検討していきたい。

・アウトドアやキャンプの人气が現在高まっており、観光に活用していくのは今

後必要だと感じている。学校のキャンプ実施に関しては、貸出テント数など不足部分もあり、すぐに実現できるものではないと考えている。

- ・新規集客施設を市が作ることは考えていない。ジュビロのホームゲームでは観光PR等をしているのでアウェイゲームでの実施なども検討していきたい。

委員・どうしても人との交流が不可欠だと思うが、新たなことにチャレンジしないとなかなか難しい。

- ・交流を図っていく中で単独では出来ないのでは、ラグビーなど様々活用して、こういうときだからこそ、新たなチャンスや事業も浮かんでくるのではないかと。

委員・いわゆる競技スポーツでは感動、市民スポーツでは健康増進。それをある程度分けるとさらにいいのではないか。

委員・磐田市の状況は、やはりスポーツによる交流客数が圧倒的に多い。スポーツに力を入れることが全体の交流客数の増員になり、スポーツに特化して市の政策をやったらいいのではないか。

委員・福田の渚の交流館周りに駐車場がある。スーパーカーが集まるとか、磐田なら軽トラ市をやるとか、面白いかと。もう一点、アスレジーナ（産業大学）さんがサッカーでプロを目指す。盛り上げて、応援していくみたいな感じで集客、昇格になれば、人も集まるかと。

## （２）基本目標２：ものづくり産業の競争力を確保します！

委員・昨今の今頃は台風被害によるメーカーのライン停止で、売上げが半減した。今回このコロナウイルスの中で、BCPをそれなりに勉強して書類をつくったが、何も使えなかった。このBCPの考え方、板についた自分たちに本当に使えるものをもう1回考えなければ。

- ・高齢者雇用だとか障がい者雇用だとか、まだこの地域でやれることがある。結果として、そういう人たちが働きやすい、研修に来て、また働いてみたいなあと言ってくれたのは本当にうれしい。厚生労働大臣賞をいただいたのも、そういうところから。そんな会社が一社でも増えていくように思っている。

委員・各社が危機感をもつのは非常にいいこと。ただし、それを指導する専門家が果たしているだろうか。自社で考えるしかない。自分のところで大事なものは何だろうか、組み立てるか考えるしかないのでは。

委員・このコロナ禍にあって、今までの路線を踏襲するのではなく、短期と長期の視点、改めて見直すことをお願いしたい。何か既に考え始めているとか、取り組み認識しているものがあれば教えていただきたい。

事務局・市内企業実態調査にてBCP策定状況についてアンケートを行っている。残念ながら10%に満たない状況。策定いただくための取組をしていかななくてはいけない。BCPも大規模災害と感染症対策のようなものを改めて見直すというような企業の意見もいただいている。市では商工会に委託させていただいて、専門家派遣事業をやっている。企業向けBCP策定支援も行っているなので、ぜひ事業を活用いただきたい。広く市内企業にお知らせする中で考えていただく

ことが必要。

- 委員・BCP関係で専門家派遣は少ない。コロナ禍で雇用調整助成金とか経営支援、ものづくり補助金の申請方面でのいろいろな相談、専門家派遣制度を利用していただける。やはり、BCPの作成は重要。事業者から相談があれば、ぜひ活用、紹介等をしていきたい。
- 事務局・短期的な視点として、中小企業の資金繰りを何とかしなくてはいけないというような施策。今後については、10月から新製品開発に対しての補助金制度を市として創設した。下請けでB to Bしかやってこなかった企業が、もう一つの柱として、B to Cの商品を開発して収益を上げる、そういった声をいただいている。国のよろず支援拠点の専門家と同行訪問していく中で、そういった取組をされる企業が非常に増えているということを実感し、10月から補助金を創設した。これから3年間、その補助金を活用いただいて、B to Cの商品を開発、新たな取組みをしていただける企業を少しでも増やしていきたい。
- 委員・具体的に上限額と補助率は？条件は？
- 事務局・補助率3分の1、上限100万円。製品だけでなく、サービスも含め新商品開発が条件。より多くの企業に使っていただけるよう、商工会、商工会議所と連携して事業を進めていく。
- 委員・BCP策定について、つくことは簡単。その効果が目に見えるような事例をもっとPRしたほうがわかりやすい。実際に九州とか東北でそういう例がある。

### (3) 基本目標3：未来をひらく新たな産業を創出します！

- 委員・大手企業（エビ陸上養殖）が、この地にこられたことは産業政策課の御努力。本当に素晴らしいことで、日本中見てもこのようなところはない。ただ、新たな基幹産業の創設に関しては、どう地元と結びついてくるのか。それをやるのが、磐田市の魅力産業になる。これをいかに有効利用できるかっていうところが、キーになってくる。核をつくるという意味では、磐田市にはスポーツもあり、農林の専門学校がある。これからは、魅力ある磐田になるかの決め手だと思う。素晴らしいプレイヤーが集まってきているので、磐田市として有効利用していかないと。
- ・個人企業、中小企業が大規模施設ではなくても、そこに集約できるようなら、もう少し小さい補助枠を作っていただきたい。可能ならお願いしたい。
- 委員・せっかくいい特産物があるのに、磐田市の中でお披露目できないのはちょっと寂しい。例えば飲食業では磐田産を多く使うとか。飲食にまとめて、磐田市の持っている農業、生産物のことを外に発信できる。そういう仕組みづくりをぜひやっていきたい。
- 委員・農業関係は本当に暇がなく、なかなか横に繋がれない。横と横をつないでいただくと、そういうことができる。すでにデータ（GABA数値）が取れている機能性野菜とスポーツを結びつけて、うまく発信すれば十分アピールできる。
- 事務局・次世代型産業の誘致では、これまでに農業関係7社、今回の養殖で8社目とい

うことになった。誘致だけではなく、地元企業との連携、横のつながりを目指していく。相乗効果を生み出すため、皆様の知恵を借りながら、模索しながらやらせていただきたい。

- ・スマートアグリカルチャー磐田とは8月に連携協定を結び、市民の健康をテーマに仕掛けをしている。ハウレンソウを使ったメニューをららぽーと内の飲食店で食べられるイベント、そのハウレンソウのレシピを募集して、磐田のゴハンというメニューづくり、それを市民に食べていただく。せっかく磐田でつくったものなので、磐田市民に食べていただく、磐田の名物にさせていただく。そういうところも目標にしながら進めている。まだまだこれからなので、皆さんの御意見を聞きながら、進めていきたい。
- ・産業大学にスポーツ科学部ができるということで、機能性野菜を食べることによって、スポーツにどんな効果があらわれるのか、市民の皆さんにも、お伝えできるようにしたい。
- ・農林水産課が主体になり、農業者、農業に関わる企業、商工会、会議所、大学、農協を含めて、未来の農業懇話会を立ち上げて、今後の取組について話し合っていく場をつくっていく。専門職大学と連携して、新たな分野の技術開発であるとか、そこで生まれてくるのかもしれない。情報交換をしながら未来の農業について考えていきたい。

- 委員
- ・農工連携の推進について、夜中機械が動いて収穫して、朝人間が集めるという24時間稼働する時代が来る。ICT化で生産量が上がるのでコストは下がる。夜中にゆっくりロボットが収穫して、朝集めて売り出す時代が来るかと思う。
  - ・アスリートベジタブルを2年位前から打ち出している。大学では来年からスポーツ科学部が出来る。アスリートと食の関係という研究ができる。

#### (4) 基本目標4：次代を見据えた人材育成・確保を支援します！

- 委員
- ・磐田市とハローワークで雇用対策協定を平成30年に結んでいる。若者、女性の活躍促進それから障害者支援を引き続き行っている。コロナの影響でイベント等厳しいが、今後、障害者面接会であるとか、引き続き検討していく。
  - ・就職氷河期の方への就職支援というのは、今年4月から打ち出しているところである。大体34歳から54歳ぐらいまで対象を幅広にしているが、対象の方が自分から来てくれるわけではなく工夫が必要と感じている。
  - ・障害者の方は、3月1日から雇用率も1%上がる。御相談にみえる方も、多分増えてくるのではないかと感じている。
- 委員
- ・昨年度ベトナムでの産業人材マッチングについて、もう1名の入国が決定し、11月には全員そろそろ。
  - ・インターンシップ事業と結びつけて、長期間インターンのPRをしてはいいかがか。変わっている大学生がどこにもいて、1年間集中してインターンをやりたいとか、尖った子たちがプロジェクトを任されて、新たなブランドの創出をやるとか。長期インターンシップで、全国に散らばっている磐田出身の大学生た

ちの中には1人ぐらいいるかもしれない。

委員・大学の就職状況を参考に紹介する。2019年就職内定率が、経営学部99%、情報学部95.1%。主な職種は、建設業、製造業、卸売小売、生活関連サービス。サービス業、販売関係が多い。県内就職率(昨年度)は、大体63.5%。今年に入ってコロナ禍では2020年9月末現在、情報学部53.9ポイント、経営学部44.4ポイント。昨年と同じ9月末現在で調べると、情報学部が64.7ポイント、経営学部52.5ポイント。この9月の段階で、10ポイント程度下がっている。他大学も、ほぼ同様な状況。

### (5) 令和2年度磐田市企業実態調査の概要と速報

事務局・現在の産業振興計画は、平成29年度から令和3年度の5年間の計画であり、令和4年度から令和8年度の5年間を計画期間とする「新産業振興計画」を、令和3年度に策定する予定。今年度実施した企業実態調査は、磐田市における産業の現状や課題について調査を行い、その結果を「新磐田市産業振興計画」の施策に反映させることを目的とする。調査は、磐田市が「一般財団法人しんきん経済研究所」に委託してアンケート郵送方式で実施した。市内事業所を対象に、工業、商業：各1,000社ずつ、サービス業：500社を無作為抽出した。参考として前回に引き続き農地所有適格法人の該当30社にも調査した。回収率は要件とした40%超。

- ・速報について、設問「経営状況」や「雇用関係」のほか「新型コロナウイルスの影響」等、急遽の質問事項も含めて調査した。項目もかなりあるので、今回あくまで速報ということになる。時間の都合上、すべてに目を通していただくのは難しい。次の機会で、ご意見をお聞かせいただきたい。企業実態調査の説明は以上。

### (6) 全体を通しての意見

委員・かなりの意見が出た。スポーツ資源のネットワーク化ではジュビロとの交流。竜洋海洋公園のオートキャンプ場の活用。商業の活性化に向けての仕組みづくりでは、スポーツを感動とか健康とかキーワードを使っていく。渚の交流館の駐車場の活用。BCPの考え方。さらには、スポーツと農業とのネットワーク、それが魅力ある磐田につながる。農業大学校、農業技術研究所との連携、さらには、市内飲食業と農との連携、長期インターンのPRなど。

委員・事業の進捗管理について、組織的評価とか事業の振り返りなど、そこから見えてくる課題を明らかにするとより意見も出やすい。行政への期待の強さというか、高まりみたいなものが、例年になく多かった。それを受け止めているいろいろな施策に反映していくということだが、市として全て受け止め切れるわけでもな

く、それに対して民間への要望だとか、お願いがあると思うので、そういったことがあれば、双方向の議論というのがもう少しできると感じる。

- 委員・新たな工業用地整備検討について、いま1度、市の真ん中あたりに、ちょっと小さな規模の事業者が集結できるような用地をつくっていただきたく御検討を。
- ・アンケート調査で、後継者がいない事業者が30%。大きな課題。地域で連携しながら技術、世代をつないでいく、持続可能な地域をつくっていく、こちらも検討していただきたい。

#### (7) 最後に

- 委員・今日出された意見で、すぐ取り組んでいただきたい内容もあるし、次の振興計画にキーワードとして生かされる部分もある。本日は活発な意見をいただいた。事務局は今日の意見を参考にして、事業の改善につなげていただくようお願いしたい。